

2014年度日本質量分析学会

功 勞 賞**樋口 哲夫 氏** [日本電子株式会社]

樋口氏は1974年日本電子株式会社に質量分析計の応用研究員として入社し、ほぼ同時に質量分析学会に入会し現在に至っている。入社後、GC/MS, CIイオン源, FDイオン源, FABイオン源の市販装置への導入に貢献し、なかでも、FDイオン化法とリンクドスキュンとの組み合わせによるペプチドシーケンス分析は時代を先取りした取組みであった。また、1983年に日本電子株式会社米国現地法人に赴任以後、マサチューセッツ工科大学K. Biemann教授やメリーランド大学C. Fenselau教授らと交流を深め、1992年に京都国際会議場で開催されたBMS'92では本学会の一員として米国からの主要な参加者に対するホスト役を務めた。一方、上水浄水試験法を契機とする質量分析計ユーザーの急激な増加の中で教育の重要性をいち早く認識し、全国で開催される技術セミナーや大学における講義、さらにはNPO法人分析産業人ネットワークやJAIMA（現JASIS）においてボランティア講師を務めるなどメーカー色を一切排除して質量分析の基礎（MS基礎）に関する教育活動を行い、本学会の質量分析講習会では4回にわたってGC/MS基礎講座の講師を担当した。

このように、樋口氏が本学会の会員として質量分析技術の進歩発達および普及、さらには国際交流に寄与したことは本学会功労賞に値するものであり、贈呈を決定した。